

「練習の積み重ね」

私はこの度、社会福祉法人宝寿会を受験し、内定をいただくことができました。かねてより志望していた宝寿会への就職が決まり、心から嬉しく思います。

中学生のころから介護福祉に興味があり、青雲高校で学んだことを生かし、介護職に就くことを目標としていました。インターンシップがコロナの影響で無くなってしまいましたが、企業説明会や企業見学で会社の魅力を知り、より宝寿会で働きたいと思いました。初めて自分の進路を両親に話した時、応援されましたが、介護という職業に心配な面もあると言われました。それでも私は高齢者の方の生活が少しでも豊かになるお手伝いをしたいと思い、宝寿会の受験を決めました。

進路活動のなかで履歴書の作成、作文、一般常識問題、面接練習に取り組みました。特に面接練習に力を入れました。声が小さくなったり、ぼそぼそと聞き取りにくく話してしまうことがあったので、練習を重ねて克服するようにしました。また、自分自身を知ってもらえるように、長所や短所、特技、頑張ったことなどのエピソードや、そこから得たものを交えながら話すようにしました。

試験当日の内容は、一般常識、作文、面接でした。私の他にも一人の大学生の方が受験しており、一人よりも緊張が和らぎました。一般問題は、中学の問題と時事問題、福祉の基礎的な問題が出題され、忘れていた問題が多かったので復習が役に立ちました。作文テーマは「人を思いやる心・思いやり」だったので、練習の成果を出してすらすら書くことができました。面接は特に難しい質問はなく、たまに答えを掘り下げられながら会話のような面接でした。「気の合わない人がいたらどうするか」や「今まで成功したこと・失敗したこと」など自分自身を探るような質問が多くあり、正直な気持ちで答えるように心掛けました。

就職活動期間はあっという間に過ぎてしまいましたが、たくさんの方に支えられたことの嬉しさと感謝が強く心に残っています。励まし合いながら取り組み、自分の内定はもちろんのこと、友人の内定が決まった時とても嬉しかったです。面接練習や作文添削など忙しい中、協力してくださった先生方にも感謝を忘れずに過ごしたいと思います。

就職活動の中で、もちろん全てが上手く進んだわけではありません。わからないことや失敗が多々ありましたが、わからないことは聞く、アドバイスをもらうなど、自分以外の意見も取り入れて改善していくことが大切だと学びました。将来を決める大切な時間だからこそ、最終的な自己判断を下す機会は必ずやってきます。妥協することなく実現したい将来にどれだけ本気になれるかがカギだと思います。後悔のないように、日常生活から進路を意識した行動をすると、より引き締まった気持ちで就職活動に臨めると思います。進路実現を心からお祈りしております。

「受験を終えるまでの緊張」

私は岩手県立大学短期大学部生活科学科生活デザイン専攻を受験し、合格することができました。

私はファッションに興味があり、将来は被服分野の仕事に就きたいと思い、花北青雲高校に入学しました。ファッション造形基礎を選択し、和服を製作する中で手縫いであることに意味があることや和服を作る苦勞を知りました。和服を通して日本の文化に興味を持ち始め、岩手県の伝統工芸品について調べるようになりました。伝統工芸品の魅力を知るようになり、将来は伝統工芸の魅力を多くの人に知ってもらい仕事に就きたいと考え、そのためにはより専門的な知識が必要だと考えました。私は産業経済交流課地域産業担当という具体的な職を決め、公務員指導にも力を入れていて、地域教育に力を入れている岩手県立大学盛岡短期大学部で学びたいと思いオープンキャンパスに参加しました。参加して分かったことは、学生と先生の距離が近く、少人数制クラスのため気軽に話すことができ、深く学ぶことができると感じ受験することを決めました。

志望先を決めてからは、小論文の過去問が岩手県立大学のサイトから3年分出ていたので、小論文を中心に対策に取り組みました。2年次に行ってきた「新聞読み」を振り返ったり、様々な分野の知識を身に付けることを意識しながら対策を行ってきました。また、知識を増やすために伝統工芸について調べました。株式会社日本ホームスパンの専務の方にインタビューするために、自分で電話やメールで連絡を取り、伝統工芸品の製作者側の意見を聞きました。伝統工芸品の製作者と消費者それぞれの意見を踏まえ、自分の意見を出せるようにしました。面接練習するときには過去問をもらい、受け答えを書いたものを添削してもらってから面接練習を始めました。岩手県立大学短期大学部は、志望理由書から詳しく掘り下げてくる面接なので、志望理由書に書いたことをしっかり頭に入れておき、考えられる質問をまとめました。最初は敬語の使い方が難しく、敬語がスムーズに出せるように練習しました。正しい敬語を使うことを意識しながら、自分のアピールできることをしっかり伝えられるように家でも練習しました。話すうちに質問されたことを忘れてしまい、語尾があやふやになってしまうのでそこに注意して取り組みました。何度も繰り返し練習し、伝統工芸の知識を身に付けたことでスムーズに話せるようになりました。

試験当日は最初に小論文を行いました。過去問3年間分では建築家被服などのデザインについて述べるものでしたが、今年は「エシカル消費」について述べるSDGsの課題だったので驚きました。しかし、新聞読みなどでSDGsについて考えていたので良かったです。受験番号が2番だったのに面接は1番目でとても緊張しましたが、今までやってきたことを思い出して、心を落ち着かせて面接することができました。面接も志望理由書のことが大半で受け答えもしっかりできたと思います。

先生方には出願準備から手厚くサポートしてくれてとても安心しました。小論文や面接練習でも的確なアドバイスや声かけをしてくださり、自信を持って受験に挑むことができました。本当にありがとうございました。